

## 第2回府中市農業公園整備計画検討協議会 議事録

▽日 時 平成28年12月19日（月）午後2時から午後4時30分

▽出席者 委員側 筒井会長 石阪副会長 高野委員 松本委員 谷中委員 村野委員  
三上委員 齋藤委員 千金楽委員 （9名）

事務局側 石川経済観光課農政担当主幹 角倉公園緑地課長 加藤経済観光課農政  
係長 小林経済観光課農政係職員 （4名）

▽欠席者 木下委員 （1名）

▽傍聴者 3名

(1)府中市農業公園の整備に係る基本方針（草案）について

事務局より資料説明

会長

今回策定する基本方針素案について説明いただいたが、ここで基本方針全体についての議論をするということではなく、事務局が整理した論点4つについて議論したい。

(2)論点ごとの検討

### ア 論点① 基本理念の設定

事務局（加藤経済観光課農政係長）

たたき台として事務局より3つの基本理念を案として提示させていただいている。「市民の笑顔をつくりだす視点」「地域コミュニティをつくる視点」「都市農業をPRする視点」としており、こちらをたたき台として事務局案の修正や基本理念の追加などについてご検討していただきたいと考えている。

筒井会長

基本理念の設定について、何かご質問ご意見ございますか。

委員

前に現地を回ったときに防災兼用井戸を掘るかもしれないということだった。農家の方では、いざ災害の時は使ってもよいといった防災協定を結んでいるので、「大規模災害時は」という条件付きではあるが、「防災拠点」という言葉を入れた方がPRのポイントになるのでは。

筒井会長

貴重なご意見をいただきました。その他何かご提案ありましたら。

委員

農地が減少して、環境が悪くなっている。例えば梨を栽培している農業者が農薬を散布するにしても、近隣住民に配慮しなくてはいけない。刈り払い機で草刈りをすると住宅に刈った草が飛散するから、住宅に近い部分は鎌で刈ってくれ等と言われる。そういう現状を踏まえ、市民に都市農業を何とか理解してもらえよう施設が必要だと感じている。

委員

②の地域コミュニティをつくる視点といったところの文言で、「市民と協働し、農地・農業を通じて」とあるが、「市民と協働」というのは誰が市民と協働するのか。その考え方はいかがか。

会長

何か具体案はありますか。

委員

農業者も市民の一部であるが、多様な仕事に関わっている市民の皆さんが協働して農地・農業を通じてといった意味なのかなと。提案にあたってのお考えがあったのか。

事務局（加藤経済観光課農政係長）

誰が市民と、と言うことですが、農業公園は市の施設ですので、市が市民と協働してやっていくという視点をという意味合いで書かせていただいている。

委員

継続的に農業公園を運営していくには、農業者を巻き込む必要があると強く考えている。

連作障害等、農産物の栽培に関する知識を持っているのは、市ではなく農業者や農業に関わり合いのある人である。作物によっては大型機械を使わねばならない場面も出てくるため、そういう人が運営に携わらなくては、継続的に耕作していくことは難しい。市民農園を23年間指導しているが、一般市民だけに農業公園の運営等を任せるのは、技術面から見て厳しいと感じている。

委員

基本理念の①の市民の笑顔をつくり出す視点ということで「市民が“農”とふれあい、笑顔になれる施設を目指します」とあるが、先程お二方からご意見のあった防災、そして環境の保全に役立つという内容を付け加えてもよいのでは。

会長

事務局からの3つに新しく含めるということで、1つは防災の問題、それから環境整備の拠点の問題、それから2番目の「市が市民と」という、市民の中には農業者が入るが、より強調するような意味合いで農業者という言葉が入っても良いのではというご意見だったのではないかという理解でよろしいか。基本理念の文言その他を決めるには少し時間がかかるので、事務局と会長、副会長で原案を修正して次回の協議会にて提案するという方向でよろしいか。よろしければ、具体的な修正はこちらにらせていただいきたい。（異議なしの声）

## イ 論点② 本方針の前提

会長

事務局より説明をお願いします。

事務局（加藤経済観光課農政係長）

農業公園の立地に関する考え方について説明

筒井会長

何かご質問・ご意見ありますか。

委員

4つのエリアの中で、市が公園としてやるときにどういう形で市民の参加を考えているか。北エリアだと体験農園という形式が既に存在するが、こういったところの参加者については一般募集をするのか。

会長

具体的な方向性については、後の議論で展開するので、今回は方針について3箇所の方針を定めるものとし、用地が確保できていない北東部については、将来構想として残す。

当面は分散型ということで、現在確保できていない場所については今後新しく見つけて検討していくという方針でよろしいか。（異議なしの声）

異議はないようなので論点②については事務局の説明の通りさせていただきます。

### ウ 論点③ 各農業公園のテーマの設定

事務局（加藤経済観光課農政係長）

各農業公園のテーマの設定について説明

会長

各農業公園のテーマ、大きく分けて3つのグループ分けになるが、ここで我々委員より各農業公園の核となるテーマに沿って、機能や運用のアイデアを出していただきたい。会議は残り1回ということで、本日の会議の中で核となるテーマの設定は一定の結論を得たいので、ご意見ご質問お願いします。

委員

南町候補地は、公園用地として挙がっている土地に対して少し上流に雑田堀（ぞうだぼり）用水があり、府中市の親水路公園となっている。将来的には府中用水を将来的に繋げれば通年通水の申請をできるのではないかという希望を持っている。その親水路を活かし、小川遊びが出来るような農業公園にしたい。施設に関しては近隣の交通遊園、郷土の森公園の緑や池などをの一部を借用することを今後検討してはどうか。今の農業公園用地は農業体験できる形にすればいいと思う。

会長

第1回目に見た南町のビオトープや公園、立地条件のよい場所を巻き込んだ形での大きなテーマ設定というご意見だった。他の候補についての核となるテーマについてご意見いただければ。

委員

市内の約30の自治会の担当者が花壇の手入れをやっているが、年2回ほど植え替えを行っている。西府町予定地であれば、ただ花壇に植えるのではなく常設のビニールハウスをつくって、通年で栽培の管理などを体験できるものを作れば、都市農業を市民の皆さんに理解していただけると思う。ただ花を持ってきて植えるのではなく、自分で育てることも必要だと思う。

会長

西府町について副会長からご意見いただきました。西府町で花が中心ということでしょうか。

委員

防火地区になると昔の農家づくりは建て替えできない。昔の農家のたたずまいが見えなくなってくる。西府が基幹的な農業公園とするのであれば、ただ家庭菜園的な要素が強いものにするよりも、門やレストハウス等に日本建築的な風情があればいいのかなと思う。リピーターが付くのではないか。

会長

西府は基幹で敷地も広いということで、昔の農家をつぶしたようなものを市がどこか持っているというものはないでしょうか。

事務局（石川経済観光課農政担当主幹）

郷土の森の博物館に何軒かある。市としては先行してやらせていただいているものと思っている。

## 会長

それはもちろん高野委員はご存知と思うが、農業公園の一角に何かそういうものがあればと言うご意見だったと思うが、現在市ではそういう貴重な建物をつぶしてどこかに保存しているという状況はないようだ。そういうことも含めたテーマを設定しておけばこれからの展開によってはそういうことも考えられるのかなと思う。

## 委員

西府町は中核となる農業公園になるということだが、それなりの景観が必要になると思う。近く療育園も中学校もあるので防災も1つテーマに加えたかどうか。

南町は湧水が豊富だということだが、2番目の環境をテーマとした農業公園ということで、簡単なビオトープなど自然にふれあえる、老若男女が道を行き交いながら声をかけあえるような場所になるのではないかと考えた。

小柳町は住宅がせめぎ合いこじんまりした土地で、色々な作物を市民農園として使っている人が作っているが、一番テーマ設定が難しいと思う。ただ平たい土地だけではなくて、農産物の加工ができる施設があるといいと思う。そういうものを小柳町予定地のどちらかに建てられれば、それが食育につながるのかもしれない。

## 会長

皆様のご意見を要約すると西府が核になるということでテーマの例としてあげていただいている丸4つの一番上のものが皆さんの意見を要約すると一番近いのでは。もう少し農家の歴史的なものを加えたかどうか。

南町は高野委員がおっしゃった丸の2つめの環境・景観をテーマとした農業公園、周囲も公園も巻き込んでということだと思う。

小柳町は住宅地に1つと西武多摩川線沿いに1つと比較的小さいものが2つに分かれるが、食育につながるものということを考えて小柳町の農業公園というものを考えたかどうかというご意見だった。そうすると上から3つめのものが小柳町の農業公園に近いという感じがある。

事務局へ質問だが、テーマの例の4つめのテーマは何か想定してお考えになっているか。

## 事務局（加藤経済観光課農政係長）

あくまでも例示としてお示しした。

## 会長

西府の基幹公園の基本的なテーマとして、一番上の丸のもののほか、何か加えるものはありますか。農地の防災機能をテーマとした農業公園ということで、防災兼用井戸の設置や避難場所としての開放などということも十分対応が可能だという。また、先ほど副会長がおっしゃったような花壇につながるものというのも、非常に重要なテーマだと思う。

## 委員

府中市の農業公園としてのモデルケースとなる所なので、防災機能を前面に出さない方がよいと思う。公園予定地の真ん中に走っている生活道路が、泥で生活路としては天候によっては不便になることもあるので、あの状態のままだと近所の人にも訪れた方にも大事にされないのではないかと。高い位置に通路を造って、その下に倉庫を造っていただいて、通路の上から畑を眺められるような構造にしてはどうか。景観の美化と言う観点で、お花、ビニールハウスの整備と一緒に進めた方がいいのではないかと。

会長

防災機能も重要な中身の1つではあるが、あくまでメインテーマである“農業”からはかけ離れないようにするというのでしょうか。

委員

防災機能も備えている、府中市の農業公園の顔、というような意味合いのテーマがあればいいのかなと思う。

会長

細かい文言は事務局を含めて協議し、今お話になったような方向で、もちろん防災も拠点としての考え方も中に入れるということでしょうか。南町はいかがか。

委員

花を使った彩色も必要だと思う。副会長からの意見のとおり、年間を通して花が咲くような作付けができれば理想だと思う。公園の外周に花を植えて淵を彩り、中心部に農作物があるような構造が良いのでは。

会長

小柳町はいかがか。2箇所、食育をテーマにしたようなもの。

委員

100円入れて（農作物を）持ち帰る無人販売設備を設けてはどうか。国分寺のある場所の市民農園には販売所があった。小柳町の農業公園で道に面しているの、管理が大変ではあると思うが（販売所が）あると近所の人に重宝かなと感じた。

委員

農業体験事業の予定地にしてはどうか。10年以上親子を対象とした農業体験事業に取り組んでいるが、広報に1年に1回載るだけなので、リピーターは多いが、なかなか新規応募者がこない。もう少し大規模に募集をかける必要があるのでは。大きく同じ作物（じゃがいも等）を作ってその指導をしてあげるという様な、少し規模の大きい親子農園の拡大版のようなものをイメージしている。ただ、これは企画の範囲になってしまうので、ここが親子農園専用となってしまうのはどうかと思っている。ただ、あえて小さいところで取り組むとしたら小柳町予定地をそういう風にしたらどうか。

また、先ほど販売ということをおっしゃっていただいたが、2年前から環境まつりで子どもたちに自分が作った農産物を袋詰め・販売をさせて、売上金を寄付する活動を行っている。自分たちで採ったものはある程度は持って帰るけども沢山取れたものはそこで販売してもいいし、他へ持って行って販売をして社会貢献をしてもらおうとか。公園を企画などで通年フル活用するのではなく、少し余裕を持った使い方をした方が良く思う。

会長

論点③の各公園のテーマについて、西府は基幹農業公園にプラスして防災機能を有したものの、南町は環境景観を軸にしたもの、小柳町は食育を軸にテーマを設定していくことでしょうか。（異議なしの声）

細かい文言はこれから決めることにして、今提案させていただいた形で進めていきたいと思う。

## エ 論点④ 西府農業公園の整備・開設スケジュール

事務局（加藤経済観光課農政係長）

西府農業公園の整備・開設スケジュールについて説明。

会長

基幹公園として最初に整備に着手するにあたり案1と2が示されたが、ご意見ご質問あればどうぞ。

委員

市民農園の入園者と話をする機会があった。やる気のある人たちばかりで、何年も借りて農作業をしたいという人が多い。それを踏まえると2の案の方が無難なのは。市民のための公園をこれから作ろうというときに、そこ（市民農園）を借りている人たちを無視するような形はよくないと思う。

委員

私は意見がちょっと違うが、西府が基幹でその後を順次整備していくということであれば、やはり1の案でなるべく早く仕上げていただきたい。そして2次、3次と行くのが理想の形。第1案に賛成。

委員

私は西府の隣で畑をやっている、市民農園利用者と話をしている中で、今後ここはどうなるかという質問があった。農業公園として予算を組んでいるのでいずれ公園になると説明している。

将来的に、市民農園利用者の力を借りて農業公園を運営していくことを考えると、急に変わってしまうというのも反感を持たれてしまうかなという心配もある。先に計画の中で「広く市民に」という話があったと思うが、どちらかという市民農園とは違うことをテーマにしたいと考えている。これは今後決まることなのでしょうが、市民農園から農業公園への切り替えのタイミングをうまく計らないと、せっかく整備するのに市民の反感を買ってしまうのでは思う。一気に1年で農業公園への交代は難しいと思うので、1年半となると少し余裕が出るのでは。今回半分は市民農園ではない部分から、整備の準備ということで部分的にスタートしてはどうか。そういった面からすると2番の案がいいのかなと思う。

委員

「市民の笑顔をつくりだす」には、市民農園利用者と、周辺農地所有者の意見は重要だと思う。

委員

ただ、闇雲に長く先送りするのもどうかという気がするので、計画にかかわらず設計などは具体的にどんどん進めた方がいいと思う。

会長

意見が色々、1・2・真ん中の形があったが、今の意見を踏まえると市民農園の利用者に考慮すべきだろうという声が大きかったと思うので、事務局案の2の平成32年度の開設を目指すスケジュールということでよろしいか。もちろん一部先行して準備が入ってもいいということだが。

委員一同

異議なし。

## 会長

検討事項については全て終了したが、本日説明いただいた内容全体を通して、今後の農業公園の整備、利用メニューのアイデアなど何かご意見がありましたらご発言頂きたいと思う。市としても今後の検討の参考にしたいということであるので、よろしくをお願いします。

## 委員

6ページの「地域における意見交換会の実施」これは私の地区にも雑田堀を守っていこうという会があり、メンバーについては地域の農業者・地域住民・地域企業数社等が入っている。そういう方に説明会を実施し、親水路も導いた形の農業公園を構築していきたいということでもあるので、親水路の方も意見交換会を開催していただきたい。

## 会長

南町地区はかなり周囲を巻き込んだ形で方向性が定まっているので、意見交換会の時はそういうものを十分尊重して物事を進めていただきたい。

## 委員

別紙の方の資料6の27ページに導入機能というところで「これまで全く関心のなかった人や知識、興味がない人に、まず、関わって知ってもらうための公共PR施設」という風に見えるが、西府では広さを活かして、一部分で芋掘り会等のオープンに募集をしたイベントを行う等、市が運営するからこそできるようなものの機能を備えた方がいいのかなと思う。

また、公共の施設であるからには、登録した特定の人だけが農に触れられる“村”になりがちな市民農園のような場所にならないような配慮が必要だと思う。また、副会長がおっしゃったようなビニールハウスの導入はとてもよいアイデアだと思う。“ビニールハウスでは作物がこんなにも良く育つか”、“ビニールハウスの中はこんなにも暖かいのか”等、都市農業を市民にPRするには非常に有用であると思う。

## 会長

ビニールハウスというのは花だけでなく、農作物を含めて栽培するものであると、そういうことを考慮したビニールハウスの設置というものを考えていただきたい。

## 委員

例えば農業公園が開設されたとして、どういう形式でどういうことを市民がすればいいのか、ボランティアが何をどのようにするのか方向性・枠組みがあれば話していただきたい。区画されたものを自分で管理しているのが現在の市民農園だが、農業公園はどうするのか、定まっているのであれば教えてほしい。今までの市民農園は個々ばらばらな考えで自分な作物を作って、我々農業者が見ると景観上良くない。そうでなくて、全部畝で作るなどすれば見た目がきれい。参加者に等分に行き渡るように“今日は2つずつ収穫”等の取り決めを作れば、見た目が非常に綺麗で、まさに農業公園といえる。どのように貸し出していか、運用していくかあれば示してもらいたい。

## 事務局（石川経済観光課農政担当主幹）

ここでは基本を決めていただく場所であり、最終的にどうこうは決めていかない場所です。今後開催予定のワークショップで細かいものを決めていきたいと考えており、そこで意見・ご指導をいただければ幸いです。今回の協議会で皆さんに基本的なことを決めていただいて、スケジュールは第2案で決めていただいた。2案にさせていただいて、時間の余裕ができ、大変ありがたく感じている。

会長

3回の会議は基本をまず決めて、詳細についてはその後それぞれ展開をしていくということなので、全体の中で基本にかかるご意見・ご質問はあるか。

委員

“発信する農業”を進める施設であって欲しい。何も知らない方に興味を持っていただくことが目的と考えれば、高野さんがおっしゃる案もありだと思った。地域の住民の方と摩擦がなく、協力できることが大事だと思う。

会長

拠点がいくつああるということで一極集中ではない問いかけが広い範囲でできる方策かなと思う。いかに市民に受け入れられる情報を発信していくかが、基本の方針としては重要になってくると思う。

委員

自分の周りの農業者も農業公園に興味を持っている。同じ市民として農業者自身も積極的に参加できるようなものにしてほしい。

会長

是非農業者に積極的に参加していただいて、市民が参加して一体となった「協働」で物事を進めるのが一番の基本だと思う。農業者の皆さんに今からは是非お願いしておいていただきたいし、運用上も重要な中身なのでその点は心してかからないといけないと思う。

委員

南町の高野さんが先程おっしゃった、「畑まで行く間の通路に水路がある景観」を大事にしたいというのが印象に残っている。「畑に行くのが楽しい」ということに繋がると思う。市の北側には農業公園予定地がないが、他の大きな公園が隣接していることを踏まえ、散策や情報収集ができ、道行く人と会話が発生するような設定を組み込むと、楽しい公園になるのかなと思った。

会長

市全体を見て各公園を見て回ると、交通の便は十分に恵まれていない。自転車その他徒歩で景観を眺めながら散策できるという形が取れば、これに越したことはないと思う。

委員

私はどちらかといえば農業に関しては知らない方の市民だとおもう。私のような人が関わりたいと思えるような公園が良いと思う。水路というのは潤う感じで良いなと思った。

会長

南町予定地には周囲に公園もある。小柳町予定地も公園もあれだけ広い環境なので今は塀があるが、自由に歩けるように全体で農業公園の枠組みとしていただけるといいと思う。

委員

小柳町だが、隣の公園は暗く、雑草も出ており人があまり来ない。農業公園を作る上で、周囲の他の公園のみすばらしい状態を無くして欲しい。

会長

協議会の枠を超えている部分があるが、全体を考えることも重要だと思う。そういうところも含めて事務局では考えていただきたい。



事務局（角倉公園緑地課長）

今提案させている地域には隣接して大きな公園をかかえている。ここのネットワークであるとかは必然的に出てくると思う。公園にはトイレや水飲み場があり、そことどういう風に連携を図っていくかということが課題である。農業公園の中だけでレストハウスといった考え方は中々難しいが、隣の公園に何が必要なのかといったこと、水路を繋げていくということであれば、緑道や公園などのネットワークについて今後検討させていただけたらと考えている。小柳町の水田だけは周囲に何もないので悩ましいところだが、皆様のお知恵を借りながら進めていきたい。

委員

北東部に将来的には農業公園を整備したいという考えがあるが、浅間山公園、武蔵台公園のような、レポートで来るような場所に照準を合わせてその周辺を候補地として視野に入れておけば、市民が理解度をより深めるものができると思う。

会長

将来構想ですが是非頭に入れていただいて進めていただきたい。

他になければここまでとしたい。市の方ではただいまのご意見を元に今後の検討を進めてまいりたいと思う。

### 3 その他

事務局（加藤経済観光課農政係長）

次の開催日は未定。1月下旬頃をめどに開催を考えている。次回最後の協議会ということで基本方針の草案について正・副会長と相談の上再度お示しした上で協議会としての素案のとりまとめとしたいと考えている。